

<p style="text-align: center;">情報理論 (Information Theory)</p>		<p style="text-align: center;">4 年・前期・1 学修単位 (β)・必修 情報工学科・担当 岡村 真吾</p>
<p>〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)</p>	<p>〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標〕 B-2 (80%), D-1 (20%)</p>	<p>〔JABEE 基準〕 (c), (d-2a)</p>
<p>〔講義の目的〕 シャノンの通信理論に基づく理論体系について学ぶ。さらに、符号理論の基礎についても学ぶ。</p>		
<p>〔講義の概要〕 本科目では、情報や通信の数学的な扱い方について学ぶ。各種理論の説明に加え、具体例の紹介や演習問題を行い、理解を深めていく。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕 本科目の内容は確率論を基礎とするが、確率論についての説明は応用数学での内容との重複を避けるためにここでは省略する。応用数学でしっかりと勉強しておくこと。また、教科書には載っていない内容を扱うこともあるため、ノートを取ることをお勧めする。ただし、単に板書をそのまま書き写すのではなく、内容を理解し、自分なりに要約や補足をすること。レポートは、参考文献や他人の意見の単なるコピーではなく、自分自身による考えや作業の結果などが含まれるようにすること。</p>		
<p>〔到達目標〕 前期中間試験：情報量、エントロピー、情報源、通信路について理解する。 前期期末試験：各種符号化法、情報源符号化定理、通信路符号化定理について理解する。</p>		
<p>〔評価方法〕 定期試験の成績（75%）とレポート等の課題（25%）により評価する。 （ただし、課題の出題がなかった場合は定期試験の成績（100%）で評価する。）</p>		
<p>〔教科書〕 「わかりやすいデジタル情報理論」、塩野充 著、オーム社</p> <p>〔参考書〕 「ビギナーズガイド情報理論」、井上純一 著、プレアデス出版 「通信の数学的理論」、クロード・E. シャノン、ワレン・ウィーバー 著、植松友彦 訳、筑摩書房</p>		
<p>〔関連科目〕 情報数学で学ぶ離散数学や応用数学で学ぶ確率論が本科目の基礎となる。本科目で学んだ内容は、情報セキュリティや信号処理につながる。</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	情報量	情報量の定義について学ぶ。	
第2週	エントロピー（1）	エントロピーについて学ぶ。	
第3週	エントロピー（2）	結合エントロピーなどについて学ぶ。	
第4週	相互情報量	相互情報量について学ぶ。	
第5週	通信系のモデル	シャノンの通信系のモデルについて学ぶ。	
第6週	情報源	マルコフ情報源について学ぶ。	
第7週	通信路	通信路のモデルについて学ぶ。	
第8週	通信路容量	通信路容量の定義と計算方法について学ぶ。	
第9週	符号化の基礎知識	一意的復号可能と瞬時復号可能について学ぶ。	
第10週	符号化法	ハフマン符号などの符号化法について学ぶ。	
第11週	情報源符号化定理	情報源符号化定理について学ぶ。	
第12週	雑音のある場合の符号化	誤り検出、誤り訂正の原理について学ぶ。	
第13週	誤り訂正符号（1）	ハミング符号について学ぶ。	
第14週	誤り訂正符号（2）	巡回符号について学ぶ。	
第15週	通信路符号化定理	通信路符号化定理について学ぶ。	
前期期末試験			

* 4：完全に理解した， 3：ほぼ理解した， 2：やや理解できた， 1：ほとんど理解できなかった， 0：まったく理解できなかった。
 （達成） （達成） （達成） （達成） （達成）